

受付センターで
オペレーターが電話対応



調査経過

当委員会は、2月5日・6日の2日間、茨城県石岡市と埼玉県加須市を視察し、デマンドバスの運行について調査した。

利用者の増加と利便性の向上を図る 「デマンドバス」を調査

総務常任委員長 柳沢 浩一

「デマンド（需要・請求）バス」とは、利用者一人一人の要望に応じ、経路や時刻などを変えて運行するバスである。自宅前から希望する医療機関まで送迎するなど、きめ細かいニーズに対応することにより、利

用者の増加、経費の節減を実現しようというものである。

近年、新たな公共交通として、このデマンドバス等の運行形態を導入している自治体が増加している。

●石岡市の例

石岡市は、平成17年10月に八郷町と合併し、人口11万、面積は玉村町の約10倍の市である。

市内の交通不便地区の解消と移動制約者の移動手段の確保を図り、地域の活性化と福祉の向上を図るために、ドア・トゥ・ドアのフルデマンド型「乗合タクシー」を運行している。

考察

玉村町が運行している「たまりん」は、利用者が極めて少なく、費用対効果に疑問符がつくのは否めず、利便性の向上と、より多くの利用を促すことが課題となっている。

デマンド化が必ずしも利用増、経費節減の切り札になるとは思わないが、利用者には大変優しい運行である。

今後、町でも選択肢の一つとして、検討していくべきではないかと考える。

調査経過

当委員会は、2月12日に天狗岩堰土地改良区を視察し、現況と新年度における主要計画について調査した。

農業を支え環境用水の機能を持つ 天狗岩用水

経済建設常任委員長 川端 宏和

天狗岩用水は、1604年に当時の総社（現在の前橋市総社町あたり）城主であった秋本長朝が、領内発展のために開削した用水である。

天狗岩堰土地改良区は、400年を超える歴史ある天狗岩用水を、農業用水としてだけでなく、環境用水としての多面的な機能も維持し、後世に引き継いでいくことを目的としている。

老朽化が著しく進行している坂東大堰施設については、平成18年度から施設の機能診断調査が行われ、平成24年度から「基幹水利施設整備事業」を実施し、5年間にわたり補修整備が行

坂東大堰地区天狗岩暗渠改修工事
(吉岡町地内)



われる。工事は非かんがい期に行われるが、大規模事業であり、工事期間中は長期断水を余儀なくされるとのことである。しかし、施設を維持していくためには必要かつ重要な工事である。

考察

坂東大堰施設の用水は、群馬県の中中部地域の農業を支える重要な地域資源となっているほか、多岐にわたる利水者、また利根川を挟んで東西の主要一級河川に注水し河川の水源になるなど公益性・公共性が高く、社会的影響が非常に大きいことから、用水の安定的な通水が必要である。

今後とも、関係市町村への安定した農業用水の供給に努めてほしい。

通級教室とふれあい教室の施設改善は 早期に対策を

文教福祉常任委員長 備前島久仁子

当委員会は、3月8日に委員会を開催し、通級教室及び適応指導教室（ふれあい教室）の現状について調査した。

調査経過

玉村町通級教室は、ことばや学習に困難がある子ども、行動や人との関わりに悩んでいる子どもに対して、一人一人の教育ニーズに応じた指導目標を設定し、自立活動を中心とした



天井が低く、狭い通級教室のプレイルーム

指導を行っている。3歳以上の幼児と小学生が対象であり、現在は116名の子どもが通っているが、年々増加傾向にある。

適応指導教室は、不登校児童生徒を集団生活へ促し、学校生活への復帰を援助することを目的としている。不登校児童は、平成22年度は小・中学生合わせて12名だったが、平成24年度は5名に減少。年々減少傾向にある。

考察

通級教室・適応指導教室では、特色ある指導や取り組みが行われていることを確認できた。

通級教室は、指導室の不足やプレイルームの狭さ、天井の低さ等が目立つ。利用者が増加しているため、指導室の増設や、運動ができる校庭等の環境整備が望まれる。

また、現在の通級教室は中学生を受け入れていないが、今後は通級教室を設置し、続けて自立活動を支援できるよう要望したい。

適応指導教室は、学習に集中できる環境を整えるための施設の改善や、充実が必要であると感じた。

いずれにしても、子どもたちをサポートする支援体制を早期に見直すよう要望する。

桜も咲き始めた3月26日、高崎市議会と玉村町議会との交流会が行われました。

現在、関越自動車道と東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）が交差する地点に、高崎・玉村スマートインターチェンジ（仮称）の建設が進んでいます。このスマートインターチェンジが整備されることにより、周辺の土地利用は飛躍的に向上するため、高崎市も玉村町もそれぞれ周辺開発を進めています。



交流会での質疑の様子

3/26

高崎市議会と意見交換（ホテルメトロポリタン高崎）

交流会では、高崎市副市長の松本泰夫氏から、高崎市のスマートインターチェンジ周辺開発計画について講演がありました。高崎市側は下り出口となりますが、各方面への起点となる高速バスターミナルや、日本海や太平洋の魚介類・群馬県産の野菜を広く販売する食彩館（仮称）などの建設を計画しているとのことでした。

高崎市を取り巻く交通網は、関越・上信越・北関東自動車道、上越・北陸新幹線など、大変充実しています。北陸新幹線は、近いうちに石川県金沢駅まで延伸する予定であり、東毛広域幹線道路も間もなく全線開通します。高崎市は、この恵まれた高速交通網を生かしたまちづくりを積極的に進めています。

上り入口側となる玉村町では、道の駅の建設を今後進めていきます。隣接している高崎市と協力しながら、町独自の展開が必要となると感じました。